



こころの
健康づくり
講演会

地域で支えあう場をめざして ～地域でひきこもりを考える～

1月20日(月)

西部メディカルセンター講堂

▶時間＝午後1時30分～4時 ▶受付＝午後1時15分～
▶定員＝先着130人 ▶参加費＝無料
▶申込方法＝1月10日(金)までに、健康増進課へ電話で
申問健康増進課(本庁2階) ☎22-0506



講師
齋藤 環教授
さいとう たまき

筑波大学医学医療系社会精神保健学教授。著書に「社会的ひきこもり」「ひきこもりのライフプラン」「ひきこもりはなぜ『治る』のか?」などがある。



ひきこもりとは?

「ひきこもり」とはさまざまな要因によって社会的な参加の場がせばまり、自宅以外での生活の場が長期にわたって失われている状態のことです。

厚生労働省の定義では、「仕事や学校に行かず、かつ、家族以外の人との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」とされています。

買い物には外出できるといってもいれば、一日のほとんどを自分の部屋で過ごしている人まで、同じ「ひきこもり」と言っても、人によってその状態はさまざまです。



正しい理解が必要です

内閣府の調査結果によると、ひきこもり状態の人が全国に115万5千人いると推計されます(15～39歳で54万1千人、40～64歳で61万4千人いるとされています)。これを筑西市の人口に置き換えると約1,000人と推計することができます。

「甘えている」とか「怠けている」と誤解されがちですが、本人も社会に出ていけないことに苦しみを抱いています。ひきこもりについて正しい知識をもち、本人に

あった適切な対応が必要です。



悩んでいるのはあなただけではありません

本人自らが専門家に相談に行くことは、なかなか難しいといわれています。まずは家族が相談することで、本人が社会に出ていけるきっかけになるかもしれません。ひとりで悩んだり、家族だけで考えたりせず、専門家に相談することが大切です。



講演会について

今回の講演会では、「ひきこもり」診療の第一人者である、筑波大学の齋藤教授にご講演をいただきます。

教授は、医学的な側面だけでなく、社会的な側面も含めた多くの著書で知られています。

また、4月から「茨城県ひきこもり相談支援センター」事業を筑西市の「(一社)アイネット」が委託を受け、運営を開始しました。講演終了後には、希望者の相談予約も行います。

ひきこもりの理解を深めると共に、当事者やその家族、支援に携わる関係者の問題解決のきっかけになればと思います。